

## □報告□

## 共働きの男性大学教員における父親役割獲得に影響する要因

伊藤 陽<sup>1</sup> 鈴木 由美<sup>2</sup>

## 抄 録

目的：共働きで未就学児のいる男性大学教員の父親役割獲得に影響する要因を明らかにする。

方法：男性大学教員で、共働きで未就学児のいる8名を対象とした。分析は修正版グランデッドセオリーアプローチを用いた。

結果：共働きの男性大学教員における父親役割獲得に影響する要因は、【幼少期の役割期待に応える意識】【家庭内の父親・母親の力関係・役割からの学習】【幼少期より目に映った父親像のアセスメント】【稼得者であることも意識した医療職の選択】【思いのほか育児参加が難しい大学教員の生活】【父親目線で子どもの話ができる職場環境】【妻の妊娠出産を傍目に見て強まる父親としての自覚】【夫と妻・父親と母親としての在り方の模索】の8カテゴリーと24の概念で説明された。

考察：自身の父親像を批評的に捉え、夫婦で人間関係を再構築していく様相が窺えた。また職場環境も重要で育児休業取得の可否や、同じ境遇の同僚の存在も影響していた。男性大学教員の父親役割獲得過程においては、成育歴や職場環境、夫婦関係の再構築が重要な影響要因となっていた。

キーワード：父親役割獲得、父性、ジェンダー、共働き、男女共同参画

## I. 緒言

労働政策研究・研修機構の統計情報<sup>1)</sup>によると、この30年間に共働き世帯は倍増した。これに対して、厚生労働省<sup>2)</sup>によると父親の育児休業取得率は現状では6.16%であり、育児休業（以下、育休）など両立支援制度を利用する父親は多いとはいえない状況にある。また「取るだけ育休」という言葉が存在し、3人に1人が育休を取得しても家事や育児が1日2時間以下である<sup>3)</sup>という実態も報告されている。結局は女性の育児負担が重い結果で、男女共同参画白書<sup>4)</sup>によると、6歳未満の子どもをもつ男性の家事・育児関連時間は2016年で83分であるという。妻が無業の場合は75分、共働き世帯においては84分と大差ないことがわかる。津間ら<sup>5)</sup>によると、「片働き」の夫婦においては父親＝働き手、母親＝育児という役割の分極が固定化しやすく、妻の過重負担を招いている。村井ら<sup>6)</sup>は、共働き世帯では夫婦が充実した育児・家庭生

活が送れるように、ワークライフバランス（以下、WLB）を実現できる支援の在り方を検討する必要があるという。

父親の育児、家庭教育参加の期待が高まる中で、多賀<sup>7)</sup>によると、稼得者役割への期待が薄れる傾向はなく、男性は矛盾した期待に晒されている。高橋<sup>8)</sup>によると、男性は自分が受けた成育歴が現在の育児に大きく影響する。従って、成育歴や環境が性別役割分業意識に影響していると推察する。育児における父親役割獲得について、森田ら<sup>9)</sup>は、妻の妊娠期からの父親役割モデルとの出会いや想起により、自分なりの理想的な父親像を考える体験が必要であるという。磯山<sup>10)</sup>は、両親学級、夫立ちあい分娩、父親への育児指導が父親役割獲得を促すと述べている。また木越ら<sup>11)</sup>は、妻の妊娠を肯定的に捉えることが父親としての気持ちの出発となり、夫婦の体験共有を経て父親像の形成に至ると述べている。これらのことから、父親役割獲得過

受付日：2021年12月28日 受理日：2022年7月11日

<sup>1)</sup> 社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部埼玉県済生会川口総合病院

Saitama Prefecture Saiseikai Kawaguchi General Hospital

19S1016@g.iuhw.ac.jp

<sup>2)</sup> 国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科 保健医療学専攻 助産学分野

Division of Midwifery, Graduate School of Health and Welfare Sciences, International University of Health and Welfare

程は妻の妊娠が始点となり、体験を共有し、自身の親を父親モデルとして想起し、父親像を築き上げる過程を辿ると考えられる。

近年では父親対象の研究が充実し始め、明野<sup>12)</sup>は、レビューから父親の発達や父親になる実感など多岐に渡るといふ。趙<sup>13)</sup>の推論では、時代ごとに理想の父親像が変わり、家庭での父親の教育力が期待されているという。また共働き世帯が増え、父親役割獲得への影響要因が変化している<sup>13)</sup>。父親役割について森下<sup>14)</sup>は、配偶者が有職・無職であるかにより、配偶者との関係や仕事と家庭との間で生じる葛藤の内容や程度に相違があるのかを検討することが課題であると報告している。これらのことから、父親も母親も稼得者となり得る共働き世帯においては、育児休業を巡る意識や妻の就業意識も含めて、父親役割獲得に影響する要因も共働き男性の特徴があると推察した。

そこで今回、勤務形態が裁量労働制の共働きで、未就学児をもつ男性大学教員の父親役割獲得に影響する要因を明らかにする目的で半構造化面接を行った。

## II. 方法

### 1. 研究デザイン

質的記述的研究である。

### 2. 研究対象

裁量労働制を導入している大学で、専任教員として就業する男性大学教員で、共働きで未就学児を持つ8名である。

### 3. 研究期間

調査期間は令和2年7月～令和2年10月末日であった。

### 4. データ収集方法

文献検討に基づくインタビューガイドを用いて、半構造化面接を行った。個人属性(年齢、結婚年齢・結婚歴、職業・就業年数・勤務時間、最終学歴、対象者の実家の家族構成)、成育歴、両親の関係性、妻の妊娠

がわかった時の気持ち、出産までの父親準備行動、育児休業制度や職場の理解、自身がなりたい父親像についてであった。対象者には、調査内容とICレコーダーに録音する旨を文書と口頭にて説明し、同意を得た。

### 5. 分析方法

本研究は、修正版グランデッド・セオリー・アプローチ(以下、M-GTA)を用いた。M-GTAはデータに密着した分析を行い、理論の生成が目的であり、象徴的相互作用論を基盤としている<sup>15,16)</sup>。本研究での分析テーマは「共働きの男性大学教員における父親役割獲得に影響する要因」であり、分析焦点者は「共働きの男性大学教員」である。分析結果の信頼性妥当性の確保のため、質的研究に熟練した研究者からのスーパーバイズを受けた。

#### 用語の定義

成育歴：幼少期からどのような環境でどのように育ってきたかという経験。

父親役割獲得：子を持つ男性が父親としてどうあるべきかという意識を基に行動や考え方を獲得すること。

育児休業：子供を育てる従業員が法律上取得できる休業であり、育児介護休業法(正式名称は「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」という法律に定められている<sup>17)</sup>。本文中で、引用文献に「育児休暇」「育休」とあれば、そのまま用いた。

裁量労働制：業務の性質上、業務遂行の手段や方法、時間配分等を大幅に労働者の裁量にゆだねる必要があるという厚生労働省により定められた業務で、労働者を実際にその業務に就かせた場合、労使で予め定めた時間働いたとみなす制度<sup>18)</sup>。

### 6. 倫理的配慮

本研究に付随して得られたデータの管理や対象者への研究参加に関する依頼書・説明書・同意書を作成した。研究責任者から所属長に依頼状を送付し、該当する対象者を選定してもらった。所属長より選出された

対象者に対して、調査は任意であり、所属長などからの依頼があっても、研究の段階での拒否・棄権が可能であること、協力できない場合でも不利益を被ることはないこと、得られたデータは本研究目的のみに使用し、録音データ、逐語録等の個人情報の保護のため暗号化し、研究終了後は10年間の保管後、速やかにデータを消去し文書はシュレッダーなどで安全に破棄する旨を口頭および文書にて説明し、同意を得て調査を実施した。なお、本研究は、国際医療福祉大学倫理審査委員会により承認された（承認番号：20-10-45）。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 対象者の概要

対象者の個人属性は表1の通りであった。A大学の医療系学科の所属長から紹介された対象者候補9名に依頼し、8名から承諾を得られた。対象者の年齢は30代前半～30代後半で結婚年数は、5～11年で平均8.75年であった。現在の職場への就業年数は0.5～10年で平均5.5年であった。面接時間は28～110分で平均73分であった。

共働きの男性大学教員における父親役割獲得に影響する要因は、8カテゴリー24概念により明らかとなった。それら8カテゴリーは【幼少期の役割期待に応える意識】【家庭内の父親・母親の力関係・役割からの学習】【幼少期より目に映った父親像をアセスメント】

【稼得者であることも意識した医療職の選択】【思いのほか育児参加が難しい大学教員の生活】【父親目線で見ると子どもの話ができる職場環境】【妻の妊娠出産を傍目に見て強まる父親としての自覚】【夫と妻・父親と母親としての在り方の模索】であった。

#### 2. ストーリーライン

以下ストーリーラインで、カテゴリーは【 】、概念は〈 〉で示して説明する。また図式化したものを図1に示す。

共働きの男性大学教員においては、「男子だから」と言われることがない〈性差に捉われない幼少期〉を過ごした対象者がいた一方、〈地域・家庭での役割期待に応えた幼少期〉により、地域で長男だから跡取り、家庭では男子だから優遇された生い立ちの対象者もいた。これらは【幼少期の役割期待に応える意識】となった。

また【家庭内の父親・母親の力関係・役割からの学習】には男女役割分業が明らかな〈両親の力関係・性別役割分業〉または〈母親の意見が反映される家庭〉で、対象者らは親同士の力関係や役割を学習していった。

その結果、〈亭主関白な父親はイヤ〉と同時に仕事人として評価できる〈仕事に一生懸命な父親を尊敬〉、〈稼得者としての父親〉と捉え、批評的な視点で【幼少期より目に映った父親像をアセスメント】していた。

表1 対象者の個人属性

対象	年齢	現職の就業年数	勤務時間	結婚年数	子ども	妻の就労状況	現在の家族形態	生まれ育った家族構成	面接時間
A	30 半ば	2	9	7	2 (男・女)	医療職	核家族	6 人家族 (兄3人)	28
B	30 後半	10	10	10	3 (男・男・女)	医療職	核家族	6 人家族 (兄)	51
C	30 後半	5.5	10～11	10	2 (男・男)	医療職*	核家族	5 人家族 (姉・弟)	110
D	30 後半	2	10.11	11	3 (男・女・男)	委託・内職	核家族	4 人家族 (弟)	51
E	30 前半	0.5	9～10.5	5	1 (男)	医療職	核家族	5 人家族 (兄)	59
F	30 後半	10	10	11	4 (男・男・男・男)	医療職 / 育休中	核家族	6 人家族 (妹)	81
G	30 後半	4	10	10	3 (女・女・男)	医療職	核家族	4 人家族 (弟)	109
H	30 前半	10	15	6	2 (女・男)	医療職	核家族	6 人家族 (姉)	102
		5.5	10.685	8.75					73.875

イタリック体は未就学児。\*夜勤なし / 休日出勤あり。

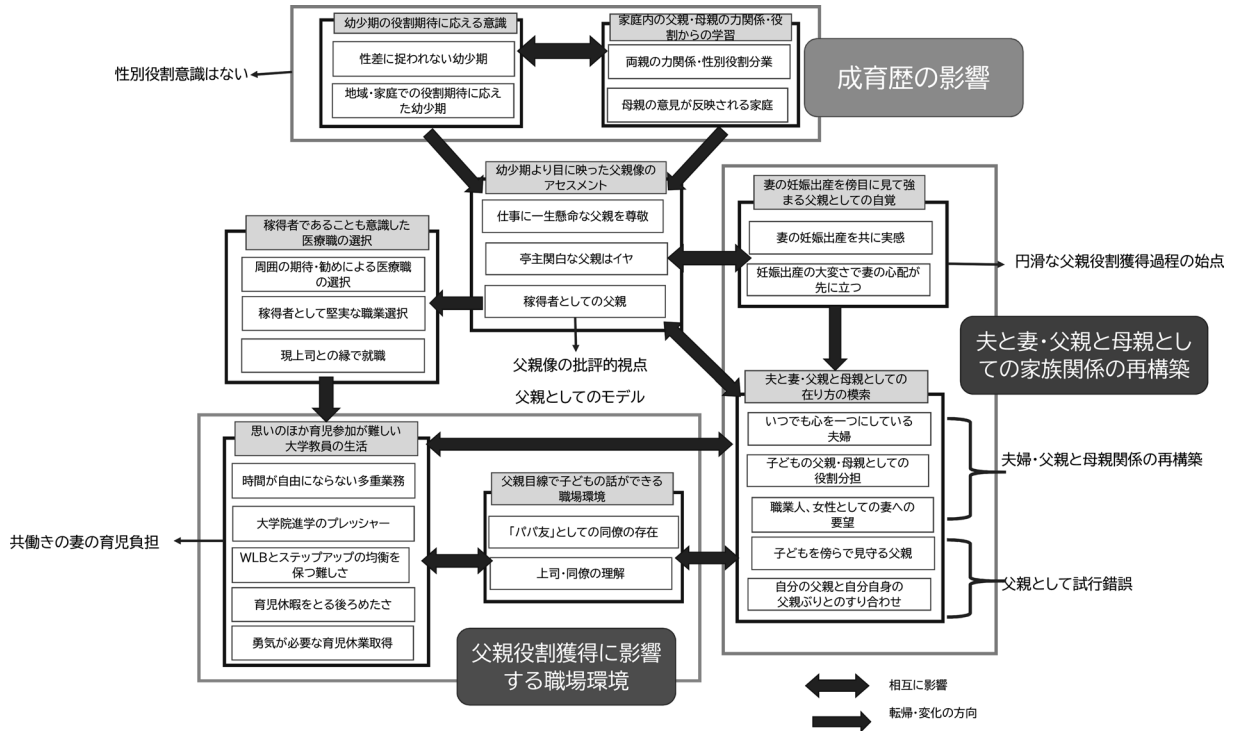


図1 共働きの男性大学教員における父親役割獲得に影響する要因

やがて、職業を決める時期には〈周囲の期待・勧めによる医療職の選択〉、同時に収入が確実に得られる〈稼得者として堅実な職業選択〉により、〈現上司との縁で就職〉し、【稼得者であることも意識した医療職の選択】により、現在の医療系大学に就職した。

しかし、それは【思いのほか育児参加が難しい大学教員の生活】であった。大学教員には〈大学院進学のパレッシャー〉がのしかかり、〈WLBとステップアップの均衡を保つ難しさ〉でWLBを考えるとステップアップはままならず、また思いのほか〈時間が自由にならない多重業務〉なので、〈育児休業をとる後ろめたさ〉があった。そして前例がない〈勇気が必要な育児休業取得〉であるから育児休業を申請しないでした。

一方で、多忙な大学教員としての生活においても、同世代で子どもがいるという点で境遇を同じくする「パパ友」としての同僚の存在があり、育児に関して〈上司・同僚の理解〉が得られた。今の職場は別の面で【父親目線で子どもの話ができる職場環境】であった。

妻が妊娠すると、対象者らは妊婦健診に同伴し、と

もに両親学級を受講し、妻の変化をみながら〈妻の妊娠出産を共に実感〉する。また重いつわりや切迫早産などの経過から、〈妊娠出産の大変さで妻の心配が先に立つ〉経験もあった。こうした経験は【妻の妊娠出産を傍目に見て強まる父親としての自覚】を強める。

やがて子どもが生まれると、妻とは同じ方向を向いて〈いつでも心を一つにしている夫婦〉であろうとし、〈夫と妻・父親と母親としての役割分担〉を調整しあう。また現在育児休業中の妻もおり、〈職業人、女性としての妻への要望〉もあった。子どもに対しては〈子どもを傍らで見守る父親〉でありたいと思った。そして父親として〈自分の父親と自分自身の父親ぶりとのすり合わせ〉をして自問自答し、夫と妻、父親と母親という関係から【夫と妻・父親と母親としての在り方の模索】をしていく。

3. カテゴリー、概念と定義、バリエーションについて  
8 カテゴリー、概念、定義および、具体的な語りのバリエーションを表2に示し、バリエーションの引用は表中に番号で1-1, 1-2のように示した。



表2 共働きの男性大学教員における父親役割獲得に影響する要因

カテゴリー	概念	定義	バリエーションNo.	バリエーションの例	該当する対象者
幼少期の役割期待に 応える意識	性差に捉われない 幼少期	周囲からの性別役割期待がなく性差を意識したこともない幼少期	1-1	あんまり、そこらへんにはこだわりは持たずに生きてきた感じで	ABDEF
			1-2	男なんだから跡を取るべきだとか、そういう風なことを全く祖父からも、父からも言われたことなく、まあ自分の好きに、好きにっていうのはあれだけでも、やりたいことがあればいいんじゃないかって感じのことは、…育てられてきたのでたぶん…なので、あんまり意識したことないですねはい…男っていうような	
			1-3	(弟と)6歳年が違う、小学校1年生と小学校6年生以上の差があるので、あの…勉強のこともそうだし、生活上のこともそうだし(中略)一緒に生活していく中で全般にわたって、まあ弟の面倒は見なきゃな、遊び相手になきゃいけないとか	
	地域・家庭での役割期待に応えた幼少期	地域・家庭から長男、性別など立場に応じた役割期待があり、それに応えようとしたこと	1-4	お兄ちゃんだから長男だからっていう言われ方は両親から結構されてたというのは、今振り返るとありますので、なので、まあ、男子であって、まあ子どもながらになんかしっかりしなくちゃいけないんだな、男子であるから、お兄ちゃんだから、おねえちゃんとは違う立ち位置があるんだらうなっていうのは、ということは意識させられていたのか	CBDFH
			1-5	(祖父が)長男が一番、長男メイン…で子育てしてて、だからなんでも、その長男にもお姉ちゃんいるんだけど、長男がいたことが絶対みたいなの…そう、で多分それを引き継いで、姉がいるけど、自分の方が、優先で育てられた…	
家庭内の父親・母親の力関係・性別役割分業	両親の力関係・性別役割分業	家庭内で両親の性別役割分業や力関係があることを見て育った経験	2-1	土地柄そうなのかもしれないですし、世代的にそうなのかもしれないですけど、お父さんが外に稼ぎに行くと、お母さんが専業主婦というパターンの方が多かったような気がします。なので、そんなに自分自身違和感もなかったですし、母親ももしかしたらそれが普通だったかもしれないですね	ACDG
			2-2	主導権…子供の頃はオヤジですね…父親が強かったと思います、はい、亭主関白まではいかないですけど…そうですね…父親が強かったですね…最近では違いますが…	
			2-3	物事を決めるときは、父が主体でしたけど、じゃあその…実際しつけ、例えば今しつけという言葉がでたところで言えば、しつけ…を実践してるところが母になるので(中略)まあ不在のときが多かったですよね、なので…まあでも、まあもろもろ、大きなところで見れば、やっぱり父、父の考えがベースにあって、母がまあ子どもたちの世話をしていたことかなと思います	
	母親の意見が反映される家庭	表向きは母親が家庭内の決定権を握っていたのを見てきた経験	2-4	何を決めるにしてもまず母ですね、うちの父はまあ何も言わない、何でもいって感じですね	BCEF
			2-5	子供からすると一番頼る相手は母親だったと思うんです、母親がすごく、良くも悪くも口うるさかったの、家の決定をしているように子供からは見えていたんですけど、まあ大事な決定をしていたのは父親だったかもしれないですね	
			2-6	かかあ天下っていう、奥様を立てようっていう…こう、文化が若干あるんですね…だから奥さんには従うフリをしながら、はい…あの、大事なことは父が決めるみたいな、うまい父でしたよ、立ち振る舞いみると	
幼少期より目に映った父親像を アセスメント	亭主関白な父親はイヤ	父親の亭主関白なところは嫌だと思ったこと	3-1	まあ、いわゆるうちの父親は…昭和の…昭和の何ていうんですかね…さっきもでてきた亭主関白の…で、ちょっとこうアウトローな感じなんです、(中略)で、こういうお父さんは嫌だと思ってたところはあったんですね	BDH
			3-2	男の…昔の人の考えで、男子優先…自分もそうだったんじゃないかな?…うん…(中略)だからむしろ「女の癖に」ってよく言ってたね…言動とか結構厳しくて、言葉遣いとか…けど自分(H氏)の方がゆるい…あまり怒られない…だから女がそういう言葉使うなみたいな…亭主関白的な…	
	仕事に一生懸命な父親を尊敬	父親は仕事に一生懸命で職業人としては尊敬できると思う	3-3	(父は)こんなにも仕事一生懸命でできる人だったんだ、すごいなっていう風なのはやっぱり思いますね、はい…責任感があったんだなっていう風な	ACFG
			3-4	父親からそういう職業こういう風なのがいいんじゃないかってことを…最終的にはこのリハビリっていうような情報…あつこのリハビリって情報をもらったのは父親だったの、うん…やっぱり公務員で、介護保険ができるっていうようなこととかに携わって情報を色々収集してたので、「これから活躍できそうな職業だよ」っていうようなことは、一部父から情報はもらった、それは間違いなくここに行くのには有力な情報だったのかなと思うんですね…でも、そういう情報は、それと同時に教員が大変だっていうのも、実際そうだったんですけど父と母が、からも教えてもらって	
	稼得者としての父親	父親はお金を稼いでくる稼得者として目に映ったこと	3-5	理想とする父親像ね…これはね…わかんないですけど…自主性を…伝えるだけでいいのかなって	BH
3-6			まあ金銭的余裕をもつっていう件と、決断できる力…この2点を思い出さ…うん…お金必要だな…決断しつかりしなきゃなっていうのを2人から、こう思いださうな…お金とか微妙な話だけださ…結局世の中それですよ		
稼得者であることも意識した 医療職の選択	周囲の期待・勧めによる医療職の選択	周囲の勧めや期待を受けて医療職となる	4-1	今まで病院あったのに、もったいないし、どっちかっていったらその病院そのまま継続していきたいじゃない…だから、自分に医者になってほしかったらしい…すごい親密な関係だったわけだから…継いでもらえるんだから自分か、姉かみたいな…のも考えてくれるようなことだった	BFGH
			4-2	就職氷河期とか呼ばれているような時期だったので、そのやっぱ医療系に進むのは、大方たぶん賛成だったのかなと	
	稼得者として堅実な職業選択	堅実に稼げるために今の職業を選んだこと	4-3	まあ昔教員やっていました、で、しっかり病院で働いてきました…、でまたここで教員として戻ってくるときに、まあこの2つがあると…まあ最初から上のほうに入りやすいんじゃないかって(中略)急募とかの場合、教員ほいほいです、今欲しいですってうときはたぶん採用してもらって率が高くなつて…うん…あったほうがね…急に入るとも教員経験ないと授業できないから、少しでもやってた人のほうが…そういう急な募集があった場合は、とってもらって確率は多分高いと思う…うん…まあそういうのも考えて	GH
			4-4	まあお金欲しい…でなんか途中で就職どうすんのかなって話になったときに、まあ医療職になろうかなって…	
	現上司との縁で就職	現在の上司からの誘いなど縁があって大学教員になる	4-5	大学院にいて、じゃあ(学位)取るならちゃんとやろうって博士まで取って…で、そのまま、研究は嫌いじゃないので…(中略)11年くらいやってたときに、こちら(大学)に移る話がちょうどあって(G)	ABEFG
4-6			そんなとき、助手がいなくなってたそうなので、中途半端に9月から入ったんで、急遽その年の6月くらいですが、9月から、後期からお願ひしますと		
4-7			自分がステップアップしてはどうかという話になって、じゃあその時の上司が、まあ今学科長なんですけど、大学院とかに行くともた視野とかも広がるかもしれないってことを、教えてくれて、		

表2 共働きの男性大学教員における父親役割獲得に影響する要因(続き)

カテゴリー	概念	定義	バリエーション No.	バリエーションの例	該当する対象者
思いのほか育児参加が難しい大学教員の生活	時間が自由にならない多重業務	大学教員になって予想外の多重業務で時間が自由にならないことを知る	5-1	学生優先だし、あと、依頼された仕事のほうが優先。で、動いてる…たぶんね、損するんだけど、学科を守るには、そういう人がいないと…多分うまくいかないんだよ…	BEH
			5-2	ちらっと半分冗談まがいって何人かの先生に「やあ運動会があって(中略)どうでしょうね～」なんて言ったら、「それは職務でしょ」っていう先生はやっぱり何人かはいて、で、もうそのムードだなんて察して	
			5-3	もう…人数結構きつきつで、臨床って回してるんですね、なので1人抜けるとかなりきついですね	
	大学院進学のプレッシャー	教員を続けるなら大学院への進学は必須というプレッシャーを感じる	5-4	(大学院)行くのが当然だみたいな雰囲気の中で、あの、ちょっとプレッシャーもあり、じゃあ行かなきゃと思って行ったんですけど	BEGH
			5-5	教員とかになるんだしたら、ある程度大学院のキャリアがないと…ダメだったりするので	
			5-6	どちらかということ、教員志望で、ただ、教員になるには、大学院いかなきゃいけないってことと、病院でまあ検査の技術がないと教えられるからって…なので、病院がメインで、ちょっとした授業とかではなく実習の補助とかに入って、で、少し慣れてきたら大学院っていう流れで	
	WLBとステップアップの均衡を保つ難しさ	今の生活とステップアップのWLBのバランスをとることは難しいと捉えていること	5-7	私を更にこう…ステップアップさせてくれる場所があるのであれば、まあ…違う場所に移っても、構わないですし、まあそれは家庭との、まあ、関係性が成り立つと思うので、私自身が	ACDEFH
			5-8	僕の場合は家庭の方を優先したいと思ってるので…まあそれをすべて蔑ろにしてまで、キャリアアップを目指すかっていうと、…そういう選択はとらないと思います	
			5-9	ここ(大学)に移るときも、論文の数とか、学会発表の数とか…しっかりやっとなかなくて教員として入れないじゃないですか…	
			5-10	なんか個人としては別にそんなに、例えば収入を多くしなくちゃいけないっていう事情はないですし、あと、なんでしょね、社会的地位を上げていくっていうのは個人としては別に必要ないと思うんですけど	
育児休業をとる後ろめたさ	忙しい中で職場に迷惑がかかると思うと育児休業をとる後ろめたさがある	5-11	(育児休業制度)取ってないですね、はい、特に、なんか、取っちゃいけないよかって言われてるわけではなく、なんか、こう、そういう風なのを自分が取得して、子供を何かしたっていうような、うーんなんていうか、ネガティブなイメージじゃないですけど、まあ…別にとらなくても普通に子供と一緒に育てられるんじゃないかなって…そういう形で思ってたので	ABDFGH	
		5-12	もう授業が普通に4月の、長男4月生まれなんですけど、実験とかもずーっとやってるときだったの、休めなかったですね		
		5-13	ここに入職したあとだったんですね、生まれたのが、で…すごく激務でその頃が…とっても休めるようなムードじゃなかったっていうことと、自分自身も余裕がなくて…取らなかったのかな…あえて…出産と立ち合いの日の翌日くらいは確か有給というか代休というか…とったような気がしますが、ままとってそれ以降をとることはなかったですかね		
		5-14	1人目のときはまだ臨床にいたので…まあ取りづらかったのはたぶんある…ある、取りづらかったというか…もう…人数結構きつきつで、臨床って回してるんですね、なので1人抜けるとかなりきついですね		
勇気が必要な育児休業取得	これまでに職場で前例がないので育児休業をとるには勇気がある	5-15	育児休暇をとろうっていう選択肢がそもそも、自分の選択肢になかった	BCDEFG	
		5-16	男の人が育児取ったことが今までなかったの…(中略)はじめての、でしたね…で、まあだから…結構、好意的に受け止められてたところは…表面上は、わかんないけど(笑)…まあけど、後輩からは、非常にいい目線で捉えられてた。先輩とか上司の方が、やっぱり、ちょっと古い考えの方も多くて、あの…まとめる役の人がいなくなるのはどうかっていう意見も多少はあったと…		
		5-17	1人目のときは、男性がとるって感覚もなかったし、社会的に許されてたのかもわかんないですね…なかったのと…2人目のときはもう博士終わった後でお金なかったので、もう自分が2年半くらい思いっきり働いてたので…で、3人目の時はこっちに赴任したばかりだったので…自分が仕事に手を抜けなかったの…って感じですかね		
父親目線で子どもの話ができる職場環境	「パパ友」としての同僚の存在	父親として子どもの話ができる同僚「パパ友」がいること	6-1	(同じ学科の)先生のほうが自分の子供よりも、年齢が上だから、結構…学校のことか幼稚園、保育園関係のことは聞いたりする	ACDEFHG
			6-2	いま4歳の子がいる教員が、4名いるんです。同級生(笑)、なので保育園みんなばらばらだったりするんですけど、まあこういうことだよとねとか、こういう行事の時にどうしようかっていう話とか、じゃあ仕事調整してわたしの方が対応しますよとか、同じような立場だから協力し合えるっていう…	
	上司・同僚の理解	上司・同僚は子どもがいることに理解がある職場	6-3	特に、仕事、はやく帰った方がいいよなんていうのは、まあ普通に職場内でも言われますし	ABCE
			6-4	仕事は第2でって…家庭第1でっていうところ、帰れる時期には帰っていいからって結構言ってくれるし…非常にその辺は、うん…やりやすい職場です…ここは	

表2 共働きの男性大学教員における父親役割を獲得に影響する要因(続き)

カテゴリー	概念	定義	バリエーションNo.	バリエーションの例	該当する対象者
妻の妊娠出産を傍目に見て強まる父親としての自覚	妻の妊娠出産と共に実感	共に両親学級・妊婦健診を受け、立ち会い出産を通して妻の妊娠、出産を実感したこと	7-1	もうほんとにポジティブに思いましたね、良かったと思いましたが、はい、なんか何も知らないことばかりなので、ぜひ一緒に、なんか子ども育てていきたいなと思ってたので(中略)全面的に支援したいなって思っていて、立ち会いも、いたしましたし、あの、なんですか、こう、病院の送り迎えとかも、できる限りしましたし	ABCEF
			7-2	実感がないというか、妊娠したって言っても自分にできた訳じゃないので、画像とかエコーでここにいるんだということしかわかんなかったの	
			7-3	相当苦しうだんたていうのを思って、何とかしてくれないかなって、ずっと心配の心ばかりでしたけど、生まれたときは相当嬉しかったですね、もう涙も出ちゃうくらい嬉しかったですね	
	妊娠出産の大変さで妻の心配が先に立つ	妻の妊娠出産を傍目に見た大変さから心配のほうに先に立つこと		7-4	結構出産が大変だったんですね、2人ともだったんですけど、切迫早産で、えっと上の子が低出生体重児で産まれて、全然元気なんですけど今は、妻が出産前3か月くらいは、もう…入院して、ベット上臥床でずっといて、もうお風呂にも入れない、すごい大変そう、動けない、で、ちょっとでも動いたらお腹が張ってきちゃって、なんかもうダメだあって、それが第1子のときは3か月入院で、第2子のときは2か月だったんです
7-5				嬉しさもあったんですけど…嬉しいし、すごいなあと思ったんですけど、大丈夫かなと…まあそれは妻の心配ですかね…母体のほうの…	
7-6				もうほんと、絶対自分じゃできないと思ったのと、あとやっぱりなまじそういう知識があるので、心配で心配で…もう怖かったですけど…で、初産って長いじゃないですか産道が出来上がってないから	
7-7				やっぱり苦しんでるのみたら、たぶん、すごい声かけてあげただろうし、まあ心境の変化があったかもしれないけど…だから今は帝王切開で生まれたことを考えてみると、何かそっちのりがよくなって思っちゃうね逆に	
いつでも心をつなげている夫婦	何でも一緒にやり、同じ方向を向いている心をつなげた夫婦でありたいと思う		8-1	一緒に育てる…まあ、例えば…子供が泣いたときに、一緒に、こう…抱っこして泣き止ませたりとか…えーっと夜泣きしてるときとかもそうですし、あとおむつ換えたりだとか、実際のこう、行動的な、ものですね、僕も一緒にこう…妻だけに負担がかからない、負担で言い方もおかしいですけど、あの、まあ身体的な、負担がかからないように、私も積極的に、やりたいという風には思っていました	AFG
			8-2	どちらかという夫婦というよりは、恋人みたいな、一緒に何かを楽しむっていうような…感じの、パートナーというのかな? そういう感じで期待してましたね、なんかご飯食べ行ったり、結構活動的だったの…ライブ行ったりとか、ご飯食べに行ったりとか、スキー行ったりとか、そういうのを一緒に楽しむ相手とかそういうふうなことで	
			8-3	同じ家族としてやるんだしたら、家庭ってところにベクトルを合わせてほしいっていうのはありますけど…自分が思ってるのと、嫁さんが思ってることを一致させてほしいって…だからよく喋りますね	
			8-4	もう、就職したときからはもう思っていましたね…特に学生時代女性が…一緒にP学科で、学生がたくさんいたので、まあ仕事する上では、まあ女性も男性ももう…もう、オープンだという風に感じていましたので	
			8-5	子供が生まれてから徐々に家事をやるようになってきたと思います、自分で言うのもなんですが…	
夫と妻・父親と母親としての在り方の模索	子どもの父親・母親としての役割分担	子どもが生まれてから夫婦で折り合いながら役割分担をしている	8-6	やっぱりこう…重要な決定を担うっていう役割は、しての方がいいんだらうなっていうのはありますよね…機微な判断とか、対応とかっていうのは、みんなで、妻との間でだったりとか、親戚の間で分担して、みんなで分業できたほうがいいと思うんですけど、…その、世帯の中で、なんかこう重要案件を判断しなくちゃいけないのは、たぶんこの地においては、父親が果たしたほうが、いいんだらうなって…それに対する、子どもの相談だったりとか、妻の、なんか迷いだったりっていうのは解決してあげる役割は、あるんじゃないかなんて思いますね…	ABCEH
			8-7	お互い1番自分が大変だと思っててことをまあやってるから…オープンっていうことにしてるみたいな感じ	
			8-8	仕事を一生懸命、責任をもってするっていうことが重要だっていう風な、育て方をされたので…えーっと、まあ妻も、仕事、をしっかりと一生懸命責任をもってやってもらいたいっていう意味では、社会人として、仕事をしてもらいたいっていう気持ちも半々ですね	
			8-9	実際自分が結婚して子供が生まれたら、あの、子供のことを、しっかりと、みて、くれるような、母親像である、ような女性がいいなとは、思っていました。はい…それが今の、妻が、正解かどうかはわかりませんが	
子どもを傍らで見守る父親	子どもを傍らで見守る父親でありたい		8-10	けど両方ともしっかり正社員で働いてるなら、5:5でいいと思うんですけど、パートなので…パートで週4なので、いま5:5なんだけど…完全に僕の不満なんだけど(笑)…6:4だったら…4日しか働いてなくて、こっち5日働いてるから、6:4にしてくれないかな…っていうそういう…家事をやってほしいなっていう	BCDEF
			8-11	子どもに別に尊敬してもらわなくても、子どもは子どもで自分で成長してほしいっていうのを、見守ってあげればいいのかっていうのは思ってますね	
			8-12	子どもにとっては父親なんだけど、1人の大人であると思うんですよ、1番身近にいる大人なんだと思うので、子どもにとってよい刺激のある大人でいたいと思ってますね…あとはまあもちろん…1番近くにいる見守れる大人であるってことと…	
自分の父親と自分の父親ぶりのすり合わせ	自分の父親と自分自身の父親ぶりをすり合わせて試行錯誤する		8-13	父親のその仕事、男として仕事をしっかりとしないといけないうんとか、まあそういう背中を見ながら、自分自身も…あの、子供に見せていかないといいなっていうのは、やっぱり感じてはいます	AEFG
			8-14	思い出すことですか…あのですね…(父に)遊んでもらってなかったんですよ…同じだと思って…自分が…もっと遊んであげれば…きつと望むものはもっと大きいんだらうなって(中略)一緒に遊ぶ…でも父親のこと思い出すのはそのときに1番ですね	
			8-15	比べてみて…ん～、まあなかなか…真似したいんですけど真似できないっていうのがまず1つあるのと、真似できないっていうのは2つあって、1つは、えーっと、もうそういう時代じゃない、っていう、まあ真似できない、…っていうのと、えーとこまで、ええ家庭のことを放棄してまで仕事をするっていうことが、いい…という風にも…完全にいいと言い切れない、というこの2つ、ですね…	

【幼少期の役割期待に応える意識】は2つの概念から構成された。概念〈性差に捉われない幼少期〉の定義は「周囲からの性別役割期待がなく性差を意識したこともない幼少期」である。バリエーションは1-1, 1-2の通りであった。

概念〈地域・家庭での役割期待に応えた幼少期〉の定義は「地域・家庭から長男、性別など立場に応じた役割期待があり、それに応えようとしたこと」であり、バリエーションは1-3～1-5の通りであった。

【家庭内の父親・母親の力関係・役割からの学習】は2つの概念から構成された。概念〈両親の力関係・性別役割分業〉の定義は「家庭内で両親の性別役割分業や力関係があることを見て育った経験」である。バリエーションは2-1～2-3の通りであった。概念〈母親の意見が反映される家庭〉の定義は「表向きは母親が家庭内の決定権を握っていたのを見てきた経験」である。バリエーションは2-4～2-6の通りであった。

【幼少期より目に映った父親像をアセスメント】は3つの概念から構成された。概念〈亭主関白な父親はイヤ〉の定義は「父親の亭主関白なところは嫌だと思ったこと」である。バリエーションは3-1, 3-2の通りであった。概念〈仕事に一生懸命な父親を尊敬〉の定義は「父親は仕事に一生懸命で職業人としては尊敬できると思う」である。バリエーションは3-3, 3-4の通りであった。概念〈稼得者としての父親〉の定義は「父親はお金を稼いでくる稼得者として目に映ったこと」である。バリエーションは3-5, 3-6の通りであった。

【稼得者であることも意識した医療職の選択】は3つの概念から構成された。概念〈周囲の期待・勧めによる医療職の選択〉の定義は「周囲の勧めや期待を受けて医療職となる」である。バリエーションは4-1, 4-2の通りであった。概念〈稼得者として堅実な職業選択〉の定義は「堅実に稼げるために今の職業を選んだこと」である。バリエーションは4-3, 4-4の通りであった。概念〈現上司との縁で就職〉の定義は「現在の上司からの誘いなど縁があって大学教員になる」である。バリエーションは4-5～4-7の通りであった。

【思いのほか育児参加が難しい大学教員の生活】は5つの概念から構成された。概念〈時間が自由にならない多重業務〉の定義は「大学教員になって予想外の多重業務で時間が自由にならないことを知る」である。バリエーションは5-1～5-3の通りであった。概念〈大学院進学のパレッシャー〉の定義は「教員を続けるなら大学院への進学は必須というパレッシャーを感じる」である。バリエーションは5-4～5-6の通りであった。概念〈WLBとステップアップの均衡を保つ難しさ〉の定義は「今の生活とステップアップのWLBのバランスとすることは難しいと捉えていること」である。バリエーションは5-7～5-10の通りであった。概念〈育児休業をとる後ろめたさ〉の定義は「忙しの中で職場に迷惑がかかると思うと育児休業をとる後ろめたさがある」である。バリエーションは5-11～5-15の通りであった。概念〈勇気が必要な育児休業取得〉の定義は「これまでに職場で前例がないので育児休業をとるには勇気がある」である。バリエーションは5-16, 5-17の通りであった。

【父親目線で子どもの話がができる職場環境】は2つの概念から構成された。概念〈「パパ友」としての同僚の存在〉の定義は「父親として子どもの話が出来る同僚「パパ友」がいること」である。バリエーションは6-1, 6-2の通りであった。概念〈上司・同僚の理解〉の定義は「上司・同僚は子どもがいることに理解がある職場」である。バリエーションは6-3, 6-4の通りであった。

【妻の妊娠出産を傍目に見て強まる父親としての自覚】は2つの概念から構成された。概念〈妻の妊娠出産を共に実感〉の定義は「共に両親学級・妊婦健診を受け、立ち会い出産を通して妻の妊娠、出産を実感したこと」である。バリエーションは7-1～7-3の通りであった。概念〈妊娠出産の大変さで妻の心配が先に立つ〉の定義は「妻の妊娠出産を傍目にみた大変さから心配のほうが先に立つこと」である。バリエーションは7-4～7-7の通りであった。

【夫と妻・父親と母親としての在り方の模索】は5つの概念から構成された。概念〈いつでも心をついに



している夫婦)の定義は「何でも一緒にやり、同じ方向を向いている心をつにした夫婦でありたいと思う」である。バリエーションは8-1～8-3の通りであった。概念〈子どもの父親・母親としての役割分担〉の定義は「子どもが生まれてから夫婦で折り合いながら役割分担をしている」である。バリエーションは8-4～8-7の通りである。概念〈職業人、女性としての妻への要望〉の定義は「妻を一人の職業人、女性としてみたとき夫としての要望がある」である。バリエーションは8-8～8-10の通りであった。

概念〈子どもを傍らで見守る父親〉の定義は「子どもを傍らで見守る父親でありたい」である。バリエーションは8-11、8-12の通りであった。概念〈自分の父親と自分自身の父親ぶりとすり合わせ〉の定義は「自分の父親と自分自身の父親ぶりをすり合わせて試行錯誤する」である。バリエーションは8-13～8-15の通りであった。

#### IV. 考察

##### 1. 成育歴で見てきた父親が父親役割に及ぼす影響

対象者らは父親を批評的に見ており、〈仕事に一生懸命な父親を尊敬〉する一面もあり、母親が強い家庭であっても〈稼得者としての父親〉として捉えられた。これらは多賀<sup>11)</sup>という得者役割としての父親像であったと考えられる。いずれは自身が一家の稼得者になることを前提に職業を選び、これが医療系の仕事であった。劉<sup>19)</sup>によると、技術持ちの者は市場経済の波にさらされても、離職したらすぐ独立・起業できると述べている。このような職業上の安定を確保したことは、家族を養うという意識より、〈稼得者としての父親〉〈仕事に一生懸命な父親を尊敬〉の影響があったと考えられる。対象者らにおいては、〈両親の力関係・性別役割分業〉〈稼得者としての父親〉を傍目に見て〈仕事に一生懸命な父親を尊敬〉していたが、性別役割分業意識とみられる語りがなかった。その背景に対象者ら全員が30歳代であり、平成元年に家庭科教育が男女とも必修となった<sup>20)</sup>影響が大きいと考えられる。

##### 2. 職場環境が父親役割獲得に及ぼす影響

大学という職場環境は予想外に多忙で、〈WLBとステップアップの均衡を保つ難しさ〉を実感する。対象者らで育児休業を取得したのは1人だけであり、育児休業取得は殆ど妻たちであった。柏木<sup>21)</sup>は、父親が有能な職業人として仕事に集中するほど子供との結びつきは弱まるという。対象者らは子どもとの結びつきを強くしたいと考えても、結局のところ時間的、物理的に育児負担が妻に偏っている状況が窺えた。また人員不足、多重業務などは〈育児休業をとる後ろめたさ〉となり、前例がない〈勇気が必要な育児休業取得〉であり、父親としての育児参加は円滑ではない状況が窺えた。笹川ら<sup>22)</sup>は育児休業を取らない背景に、固定的な性別役割分業をもつ夫婦が圧倒的多数を占めることを挙げている。対象者らには、固定的な性別役割分業意識が強い傾向はないが、育児休業取得は勇気のいることであったと推察する。このことは、共働きの妻の育児負担軽減には貢献しないと考える。尾野<sup>23)</sup>によれば、育児経験がある男性のほうが、育休を取得する男性にポジティブなイメージを抱くと述べている。また、職場の育休を取得しやすい雰囲気が男性の育休取得につながりやすい<sup>24)</sup>という。このため、育児休業取得の前例をつくる勇気や、上司が強く勧めることも必要となる。

一方、【父親目線で子どもの話ができる職場環境】は父親同士の情報交換の機会であり、父親役割を促進するには有効な環境であったと考えられる。多喜代ら<sup>25)</sup>の報告によると、父親になる準備期に心理社会的適応のため量的・質的支援を期待できる要因の1つに同僚の存在を挙げている。また育児の情報源に職場の先輩、上司を挙げている<sup>25)</sup>。西浦ら<sup>26)</sup>も、父親自身を取り巻く人間関係で、父親になった同僚や友人等、実父以外のモデルとの遭遇の影響を指摘している。このような視点でいえば、対象者らの職場環境は父親役割獲得において有益であったと捉えられる。これらのことから、父親役割獲得に影響する要因として職場環境は重要と考えられる。

### 3. 家族関係が父親役割に及ぼす影響

対象者らにおいて、妻の妊娠は望んだものであり肯定的であった。これは木越ら<sup>11)</sup>による妻の妊娠の肯定的受容である。しかし順調な経過であっても、出産の場面に立ち会えなかったことや、帝王切開になったことにより〈妊娠出産の大変さで妻の心配が先に立つ〉も経験していた。このように【妻の妊娠出産を傍目に見て強まる父親としての自覚】が強まることで、妻の妊娠中から父親としての自覚が強化されると考えられる。三里ら<sup>27)</sup>は周産期の父親のニーズとして「胎児や出生後の生活をイメージできる支援」を挙げており、対象者らは妊婦健診で超音波画像から児をイメージでき、父親としての自覚が強まったと考えられる。明野<sup>12)</sup>も妊娠期は父親の役割行動を獲得するプロセスの第1段階であるといい、妻の妊娠中に父親役割の変容として「人格的成熟」「親としての間接的態度・行動」「胎児への関わり」「親であることの自覚」などを挙げている。これらのことから、対象者らにおいては、父親役割獲得の始点は順調であったと捉えられる。

やがて子どもが生まれると、対象者らは【夫と妻・父親と母親としての在り方の模索】から、夫と妻に父親、母親としての役割を付して関係性を再構築しようとする。また〈自分の父親と自分自身の父親ぶりとのすり合わせ〉をしながら模索する。森下ら<sup>14)</sup>によれば、子どもの誕生により、自己意識の時間的・空間的広がりがあり、自分の幼少期の被養育経験やこれから展望する親としてのエピソードが含まれ、子どもとの関わりを通して自身の過去や未来を思い描く。森田ら<sup>28)</sup>によれば、父親役割適応の目標に父親としての自己像の形成、父親モデルの模索、役割期待の確認、仕事と家庭内役割の調整が含まれている。本研究においても、同様に順調な過程をたどっていたと解釈できる。

### V. 結論

本研究で「共働きの男性大学教員における父親役割獲得に影響する要因」は【幼少期の役割期待に応える意識】【家庭内の父親・母親の力関係・役割からの学習】【幼少期より目に映った父親像をアセスメント】【稼得

者であることも意識した医療職の選択】【思いのほか育児参加が難しい大学教員の生活】【父親目線で子どもと話ができる職場環境】【妻の妊娠出産を傍目に見て強まる父親としての自覚】【夫と妻・父親と母親としての在り方の模索】の8カテゴリーと24の概念で説明された。

1. 対象者らは、成育歴の影響を受けていた。成育歴で見てきた父親像を客観的に批評的にアセスメントしており、自身に取り入れるかどうかを考えていた。
2. 就職した先は、育児参加を促す要因ばかりではなかったが、別の面では父親目線で話せる職場環境であり、父親役割獲得が促された。
3. 家庭内においては、夫と妻および父親と母親としての関係性の再構築を通して、父親役割獲得ができていた。

### VI. 研究の限界と課題

本研究では、対象の世代や職業が限定されている。したがって世代や職業により、父親役割獲得に影響する要因が異なる可能性があることが研究の限界となる。本研究は、2020年度国際医療福祉大学大学院の課題研究を再分析してまとめ直したものである。一部を第62回日本母性衛生学会、第12回国際医療福祉大学学会学術大会で発表した。なお、本研究においては申告すべき利益相反はない。

### 謝辞

本研究において、コロナ禍で早くインタビューにご協力くださいました対象者の方々および対象者様をご紹介くださいましたA大学各学科長の方々に御礼申し上げます。

### 文献

- 1) 独立行政法人労働政策研究・研修機構。専業主婦世帯と共働き世帯。 <https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/timeseries/html/g0212.html> 2020.5.25
- 2) 厚生労働省。平成30年度雇用均等基本調査(速報版)。 [https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_05049.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_05049.html) 2020.5.25
- 3) 佐佐木由美子。男性3割が「とるだけ育休」で形のみ

- 深刻実態. 東洋経済 on-line. <https://toyokeizai.net/articles/-/328406> 2020.5.25
- 4) 男女共同参画局. 男女共同参画白書 平成30年版. [https://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h30/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-03-08.html](https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h30/zentai/html/zuhyo/zuhyo01-03-08.html) 2021.12.2
  - 5) 津間文子, 平岡敬子, 衣笠恵ら. 子育て支援における「片働き」父親の育児促進. 母性衛生 2018; 58(4): 702-710
  - 6) 村井博子, 流郷千幸. 育児支援に関する研究の現状と課題(文献検討). 聖泉看護学研究 2021; 10: 45-55
  - 7) 多賀太. 揺らぐサラリーマン生活 仕事と家庭のはざま. 京都: ミネルヴァ書房, 2011: 1-33
  - 8) 高橋陽香. 乳幼児を持つ父親の育成歴と育児行動. 瀬木学園紀要 2015;(9): 146-147
  - 9) 森田亜希子, 森恵美, 石井邦子. 親となる男性が産後の父親役割行動を考える契機となった妻の妊娠期における体験. 母性衛生 2010; 51(2): 425-432
  - 10) 磯山あけみ. 勤務助産師が行う父親役割獲得を促す支援とその関連要因. 日本助産学会誌 2015; 29(2): 230-239
  - 11) 木越郁恵, 泊祐子. 周産期における夫の父親役割獲得プロセス. 家族看護学研究 2006; 12(1): 32-38
  - 12) 明野聖子. 妊娠期から乳幼児期における父親の親としての発達に関する文献レビュー. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌 2013; 9(1): 65-71
  - 13) 趙碩. 日本における父親教育に関する研究の動向. 学習開発学研究 2017; 10: 133-141
  - 14) 森下葉子, 岩立京子. 子どもの誕生による父親の発達の变化. 東京学芸大学紀要総合教育科学系 2009; 60: 9-18
  - 15) 木下康仁. 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ(M-GTA)の分析技法. 富山大学看護学会誌 2007; 6(2): 1-10
  - 16) 木下康仁. M-GTAの基本特性と分析方法—質的研究の可能性を確認する—. 医療看護研究 2016; 13(1): 1-10
  - 17) 内閣府. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2017 多様で柔軟な働き方で, みんなが変わる, 社会が変わる—はじめの一歩は男性の家事・育児・介護から! [http://www.cao.go.jp/wlb/government/top/hyouka/report-17/h\\_pdf/zentai.pdf](http://www.cao.go.jp/wlb/government/top/hyouka/report-17/h_pdf/zentai.pdf) 2021.1.20
  - 18) 厚生労働省. 専門業務型裁量労働制. <https://www.mhlw.go.jp/general/seido/roudou/senmon/a12.html> 2020.12.17
  - 19) 劉楠. 中国における中年期父親の男性性: 稼ぎ主責任とケアする男性役割からの考察. 山梨英和大学紀要 2021; 19(0): 13-29
  - 20) 文部科学省. 我が国の家庭科教育の経験と特徴. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/kokusai/002/shiryou/020801ef.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kokusai/002/shiryou/020801ef.htm) 2021.1.3
  - 21) 柏木恵子. 父親の発達心理学—父性の現在とその周辺. 第4刷. 東京: 川島書店, 1993: 198
  - 22) 笹川あゆみ, 池松玲子, 小関孝子ら. 夫婦間の性別役割分業はなぜ変わらないのか: 既婚女性へのインタビュー調査から探る. アジア女性研究 2015; 24: 1-12
  - 23) 尾野裕美. 長期育児休業を取得する男性のイメージに関する探索的検討: 正規雇用で働く父親を対象に. 明星大学心理学研究紀要 2021; 39: 1-9
  - 24) 厚生労働省雇用均等一児童家庭局. 職業家庭両立課改正育児・介護休業法 参考資料集. <https://www.mhlw.go.jp/topics/2014/01/dl/tp0130-02-02p.pdf> 2021.7.30
  - 25) 多喜代健吾, 北宮千秋. 父親の育児参加への育児参加要因およびソーシャルサポートの影響. 日本看護研究学会雑誌 2019; 42(4): 763-773
  - 26) 西浦知晶, 乾つぶら, 五十嵐稔子. 初産婦の夫が行う育児準備行動. 奈良県立医科大学医学部看護学科紀要 2020; 16: 42-49
  - 27) 三里久美子, ケニヨン充子, 岸田泰子. 地域の専門職者から提供される妊娠期および育児期の支援に関する両親のニーズと父親支援の検討. 共立女子大学看護学雑誌 2021; 8: 23-32
  - 28) 森田亜希子, 森恵美, 坂上明子. 初めて親となる男性の父親役割適応を促進するパタニティポートフォリオの開発. 日本母性看護学会誌 2021; 21(2): 53-59

## **Factors influencing the father role acquisition among university male teachers with working wives**

**Minami ITO and Yumi SUZUKI**

### **Abstract**

**Purpose:** The study aims to clarify factors influencing the process that male teachers of colleges or universities fulfill their role as father in a dual-income family with a preschool child.

**Methods:** The subjects were eight male university teachers with working wives and preschool children. The survey data were analyzed using the modified grounded theory approach.

**Results:** The factors influencing the father role acquisition among university male teachers with working wives were categorized and conceptualized into 24 concepts in the following 8 categories: willingness to fulfill expected roles in his childhood, learnings from a power balance between his parents and roles of his parents, his assessment of his father in and after his childhood, decision to choose the medical profession recognizing himself as an earner, a life as a university teacher with an unexpected difficulty in the involvement in childcare, a work environment where he can talk about children as a father, increasing awareness as father during pregnancy and childbirth of his wife, and efforts to find how a husband and wife or a father and mother should be. Results suggested that the subjects saw their own image of a father critically and made an effort to rebuild the husband-and-wife relationship. Matters related to the work environment, including the availability of a child-care leave system and the presence of peers who experience similar circumstances are also important influencing factors.

**Conclusion:** During the process that male university teachers acquire their role as father, their own development record, work environment, and rebuilding of the husband-and-wife relationship are also important influencing factors.

**Keywords :** father role acquisition, paternity, gender, dual-income, gender equality